

日本人間関係学会第 29 回全国大会「コロナ禍における人間関係を考える」

—第 29 回全国大会開催及び総会報告—

今回の全国大会は本学会初のオンライン開催となった。前全国大会では誌上発表のみの開催であったが、今大会はそれに加えて基調講演やシンポジウムを Zoom により開催した。

★基調講演：「With そして Post コロナ社会における人間関係について」：

基調講演は早坂三郎本学会理事長による、これまで及びこれからの社会におけるコミュニケーションと人間関係について、さまざまな現象を挙げての講演であった。

★シンポジウム「コロナ禍における人間関係を考える」：

このシンポジウムでは、カウンセリング・コーチング、社会福祉、幼児教育、AI という 4 つの領域から、新しい人間関係を模索する現在及びこれからの人間関係について、さまざまな学びと新たな視点を得られる機会となった。

鈴木 満先生（コーチング研修会者ドリームフィールド）は、「わかり合えない」からはじめるコミュニケーション」と題した、参加者を魅了する報告であった。森千佐子先生（日本社会事業大学）は、「コロナ禍における高齢者の生活変化と人間関係」と題した、施設・在宅の比較考察であった。永野典詞先生（九州ルーテル学院大学）は、「コロナ禍における保育施設の人間関係の現状と課題」と題した、自身の園長・顧問経験に即した内容であった。そして、田中宏和先生（静岡大学）は「職場において AI と人が共存していくマネジメントの在り方～AI によって失われる人間関係と AI によって活性化する人間関係」と題した報告で、情報技術と人間の共存のあり方についての提言であった。尚、大会委員長の釜野鉄平先生がコーディネーターを担当された。

研究発表：

オンライン開催に先行して投稿募集された発表抄録集には、8 件の研究発表が掲載された。今大会では、前大会はやむを得ず休止した「**最優秀研究発表賞**」の選考が、研究委員会主導のもと行われた。

研究発表抄録集掲載一覧：

- ① 言葉かけが乳幼児の発達に及ぼす影響に関する保育者の意識：戸田大樹、大村良恵
- ②リーダーシップにおける施設形態別の就労継続意識への影響および介護職員が上司に求める構成要因：田中康雄
- ③ハンセン病にみる「無らい県運動」による排除と療養所における患者自治へ与えた影響：仲田 勝美
- ④児童相談所と市町村の連携促進の要因分析—児童相談所職員と市町村職員へのインタビュー調査から—：丸谷充子
- ⑤生徒の学校参加と三者協議会：藤田 毅
- ⑥自閉スペクトラム症児の会話能力の促進—タイプ・トークン比による「他者に伝わりやすい説明」の検討—：渡邊孝継・竹森亜美・坂本真季・和田恵・木下愛・荻野梨紗子・大石幸二
- ⑦第三者が保育所を利用する保護者の相談アクセスに及ぼす影響：竹下徹、牛島豊広
- ⑧幼稚園における遊びと友達との関係性：原子 純

学会企画論文講座：前大会に引き続いて、①占部慎一先生（研究委員長）の「(序論) 独創性と妥当性—J.グドールに学ぶ—」と②加藤誠之先生（高知大学）の「独創性と妥当性—ハイデッガーの真理論に基づいて—」講座を寄稿頂きました。

令和2（2020）年度

総会次第

令和4（2022）年2月12日開

【審議事項】

第1号議案	令和2（2020）年度事業報告	（資料1）
第2号議案	令和2（2020）年度決算報告	（資料2）
	会計監査報告	（資料3）
第3号議案	令和3（2021）年度事業計画案	（資料4）
第4号議案	会則改定案（会計年度）	（資料5）
第5号議案	予算案	（資料6）

【報告事項】

1. 会員状況：
2. その他：学会賞表彰

第1号議案 令和2(2020)年度 事業報告書

事業報告の概要：令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、対面での全国大会開催を断念し、安全を第一に考え口頭研究発表に替えて研究発表抄録集への投稿を案内して発刊し、また特別講演やシンポジウムの開催も中止としました。次に、令和3(2020)年1月から3月までの間のHP上に掲載の事業報告書・事業計画書並びに収支決算書・収支予算書等を資料として、全国大会での総会に替わる総会審議を行い、異議なく承認されました。

尚、任期満了に伴う理事選出について検討・審議議題としたが、特に自薦・他薦の表明はなく、コロナ禍故、改選の時期ではないとの共通認識から現理事会体制を維持し、改めて新理事の推薦についての依頼も行い、結果を「日本人間関係学会【改選】執行部及び理事・委員会・部会・地区会の役員候補（重任）一覧」とした。

また、例年通りの学会誌及び学会ニュースの発刊は継続でき、他にも学会誌投稿規程・編集規程・投稿要領査読用紙・そして投稿申込書の改定及び研究倫理規程を新設した。加えて、一般社団法人ピアメディエーション学会と協力関係を結び、令和3(2020)年9月23日に開催された国際シンポジウム案内をHPに掲載した。

第3号議案 令和3・4(2021・2022)年度 事業計画書

現在も新型コロナウイルス、分けても変異株であるオミクロンの爆発的感染拡大状況にあり、収束の目途は立っておらず、学会運営としても安全・安心の確保を第一としなければならないと考える以上、令和3(2021)年度の事業報告にある内容の域を超えることはできないので、事業計画の内容は以下の通りとします。但し、令和6年までの理事改選は、令和4(2022)年2月12日総会にて改選の審議願う。また、これ迄の懸案であった事業年度・会計年度の期間（10月開始～9月締め）には弊害も、また疑問も寄せられてきたので、国家・行政及び一般的会計年度に合わせて4月開始～3月締めと変更する案を同総会に提案し、審議頂く。併せて収支の改善に取組み、繰越金額を現在の約150万から、取敢えずの目途として200万円としたい。

【第30回全国大会について】：

現時点では、開催依頼を機関にお願いすることは憚られるので8月末迄待ち、感染収束状況にあれば対面開催を企画し、あるいはこれに至らざればオンラインにて特別講演とシンポジウム・研修講座などを中心に企画・開催し、総会を以て終了したい。

尚、テーマは「SDGsと人間関係」（仮題）とし、口頭発表は今年度と同じく研究発表抄録集にて代替実施したい。

【各種委員会】：

○学会誌編集委員会（田中康雄委員長）

『人間関係学研究』の発行：令和4(2022)年12月下旬予定 ※昨年と変更なし。

○人間関係士資格委員会（三好明夫委員長）

①資格「人間関係士」については、山田正明氏の後見人の記載がないこと、その後同氏のご逝去により商標登録移転登記申請が特許庁から却下されたが、商標の新規商標登録申請を行う。

②資格制度の再検討

③研修委員会との連携

○人間関係士交流委員会（佐藤貴志委員長）

資格研修に対応して企画を行う。

○研修委員会（三好明夫委員長）

①人間関係士資格の商標登録後、人間関係士資格委員会との連携による資格研修講座について検討。

②研修や講習会に対する会員のニーズ把握

③オンラインによる研修会の検討

④部会や地区会との連携による研修会の開催

○広報委員会（谷川和昭委員長）

①学会ニュース第102号は、令和4(2022)年2月発行予定

②学会ニュース第103号は、令和4(2022)年8月発行予定

○倫理委員会（山崎将文委員長）

会員が学会において研究活動をしやすい環境を整備するとともに、コンプライアンスの徹底を図る。具体的には、ハラスメント防止規定及び研究倫理規定について検討する。

また、今後、電子ジャーナルに移行することを見据えて、研究不正が起こらないように啓発活動を行っていく。

○法人運営委員会（永野典詞委員長）

①会計年度の検討とその対応についての協力

これまで法人業務の引継ぎに努めてきたが、今後は会計年度の検討とその対応について協力する。

②その他：法人運営に関する情報収集及びこれからの法人運営におけるオンラインでの対

応を検討する。

【地区会】

○関西地区会（早坂三郎地区会長）

令和3(2021)年6月度の研究会から開催しているが、新型コロナウイルス感染収束後は従前に復して開催する。但し当面、懇親会は中止。

○東北地区会（鈴木満地区会長）

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、現時点は東北地区会の再開の準備状態にある。

日本人間関係学会の活動を認知して頂きたく、今後も以下の3つに努める。

①日本人間関係学会東北地区会会員の継続者、退会者の明確化

① オンラインを使った東北地区会月例会の開催

② 理事ほか先生方によるオンライン講演会の開催

【部会】

○エイジング部会（三好明夫部会長）

①地区会との連携による研究会等の開催

②研修委員会との連携による研修会・講習会の開催

○語り旅部会（佐々木 かなこ部会長）

対面での大会開催の見通しが出てきた場合に、大会前日、開催地周辺の探訪を計画したい。

尚、新型コロナウイルス感染収束状況によっては新たな計画を立て、検討を頂きながら実施に向けた活動を行う。

【その他】

広報誌委員会、国際交流委員会、関東地区内など、休会等の状況にある委員会等はそのままであるが、対面での理事会及び総会開催ができるまで、継続審議扱いとしたい。

以上

日本人間関係学会【改選】執行部及び理事・委員会・部会・地区会

の役員候補（重任）

【理事長】：早坂三郎。

【副理事長】（3名以内）：三好明夫、森千佐子。

【常任理事】（理事長・副理事長を除く 8 名以内）：当分の間、理事全員による審議・運営と
するため常任理事会を設けない。

【事務局長】 森千佐子。

【事務局次長】 釜野鉄平、谷川俊治（※理事兼務）。

- ・要綱第 2 条第 1 項【理事】（上記理事を除いて 10 名以内）：占部慎一、
佐々木かなこ、佐藤貴志、鈴木 満、田中康雄、谷川和昭、永野典詞、山崎将文。
- ・要綱第 2 条第 2 項【理事】（若干名）：加藤誠之、田中典子、藤川君江。
- ・要綱第 4 条【理事】（5 名以内）：伊賀吉郎。

【監事】：丸谷充子、山中康平。

【顧問】：上原貴夫。

（※50 音順、敬称略）

【委員会】 [○は委員長、(副)は副委員長]

学会誌編集委員会：○田中康雄、(副) 加藤誠之、永野典詞、藤田毅。

人間関係士資格委員会：○三好明夫、(副) 森千佐子。

人間関係士交流委員会：○佐藤貴志、(副) 仲田勝美。

研究委員会：○占部慎一、(副)加藤誠之。

シニア学びと活性化プロジェクト：○占部慎一。

研修委員会：○三好明夫、(副) 森千佐子。

広報誌委員会：<当面、「休会・休刊」>

広報委員会：○谷川和昭、(副) 永野典詞。

支援活動委員会：○鈴木 満、(副) 佐藤貴志。

国際交流委員会：<当面、「休会・休刊」>

交流拡大委員会：○鈴木 満、(副) 佐藤貴志、田中典子、藤川君江。

倫理委員会：○山崎将文、(副) 釜野鉄平。

法人運営委員会：○永野典詞、(副)山中康平。

【部会】

教育部会：○占部慎一。

エイジング部会：○三好明夫

語り旅部会：○佐々木かなこ、(副) 伊賀吉郎、谷川俊治。

【地区会】

関西・東海地区会：○早坂三郎、(副) 伊賀吉郎、佐々木かなこ。

関東地区会：○<当面、「休会・休刊」>

東北地区会：○鈴木満。

※役員の任期は 3 年。【上記役員の任期は令和 6 年の全国大会総会時迄】

但し、重任を妨げない。（以上、2022 年 2 月 12 日の Zoom 開催による総会にて承認。）

学会事務局より：

【会員動向】<2022年2月20日現在>について、会員数とその内訳数及び〈入会者〉正会員・準会員、〈会員種別の変更〉、そして〈退会者〉の報告があった。

第4号議案 会則改定案（会計年度）

事業年度・会計年度の変更についての会則改定：事業年度・会計年度を10月1日始まり～9月30日締めとしている現状から、4月1日始まり～3月31日締めの期間に変更する案について、総会で承認されました。

<日本人間関係学会会則改定 新旧対照表>

新	旧
第8条（会計） 1.本会の会計年度は、 <u>毎年4月1日から翌年3月31日とする。</u> <u>ただし、令和3（2021）年10月1日から令和5（2023）年3月31日までの1年6か月については、令和3（2021）・令和4（2022）年度とする。</u> 決算報告及び予算案は、総会における審議と承認により決定される。 以下省略	第8条（会計） 1.本会の会計年度は、 <u>毎年10月1日から翌年9月30日とする。</u> 決算報告及び予算案は、総会における審議と承認により決定される。 2.本会の経費は、会費、入会金、寄付金、援助金及び他の収入とする。 3.本会の会費は、次の通りとする。 (1)入会金 2,000 円 (2) 正会員の年度会費 8,000 円 (3)一般会員の年度会費 5,000 円 (4)準会員の年度会費 4,000 円 (5)賛助会員の年度会費（1口）10,000 円

※尚、第2号議案 令和2（2020）年度決算報告及び会計監査報告

第5号議案 予算案：令和3・4（2021・2021）年度予算案

以上の2件の審議事項については、異議なく承認されましたので、割愛します。

★日本人間関係学会第29回全国大会 最優秀研究発表表彰：選考の結果、次の2題が、【最優秀研究発表賞】に選考され、オンラインでの総会にて表彰式が執り行われた。

・「リーダーシップにおける施設形態別の就労継続意識への影響および介護職員が上司に求める構成要因」
田中 康雄（西南学院大学）

・「第三者が保育所を利用する保護者の相談アクセスに及ぼす影響」
竹下徹（徳山大学） 牛島豊広（筑紫女学園大学）

※ご受賞、誠にありがとうございました。

以上